

令和 7 事業年度における業務の実績等に関する報告書



地方独立行政法人 天王寺動物園

目 次

1. 法人の概要	2
2. 令和7事業年度業務全体概況	4
3. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等	5
大項目1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	5
大項目2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	13
大項目3 財政内容の改善に関する事項	16
大項目4 その他業務運営に関する重要事項	18
4. 予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画	23
5. 短期借入金の限度額	23
6. 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画	23
7. 前号に規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	23
8. 剰余金の使途	23
9. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則(令和3年3月31日大阪市規則第63号)で定める業務運営に関する事項	24

1. 法人の概要

1. 法人の概要

1-1 現況

(1) 設立目的

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）に基づき、動物園を設置して、動物を導入し、飼育して公衆の観覧に供するとともに、動物の生態に関する調査研究及び教育活動を行い、併せて絶滅のおそれのある動物（以下「希少動物」という。）の繁殖その他希少動物の種の保存に資する活動を行うことにより、動物の生態についての市民の理解と関心を深めるとともに、環境保全に関する市民の意識の醸成を図り、もって生物多様性の保全に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

- 1) 動物園を設置すること
- 2) 動物を導入し、飼育して公衆の観覧に供すること
- 3) 動物に関する資料を収集し、整理し、及び提供すること
- 4) 動物の生態に関する調査研究を行うこと
- 5) 動物の生態に関する教育活動を行うこと
- 6) 希少動物の繁殖その他希少動物の種の保存に資する活動を行うこと
- 7) 他の動物園、水族館、学校その他の国内外の関係機関と連携し、及び協働すること
- 8) 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと

(3) 沿革

明治17年に大阪府立博物場附属動物檻として設置、大正4年1月1日に大阪市立動物園として開園。令和3年4月1日に、地方独立行政法人天王寺動物園となる。

(4) 設立に係る根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

(5) 役員の状況（令和8年3月31日現在）

理事長	山中 諄
副理事長	野村 俊明
園長兼理事	向井 猛
監 事	吉田 恭子

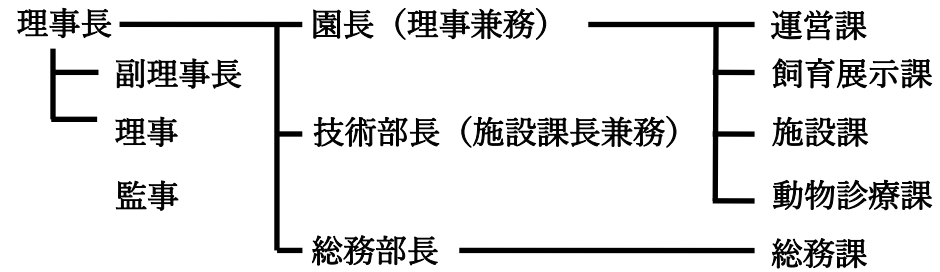
(6) 職員の状況（令和8年3月31日現在）

令和7年度末現在、74人であり、平均年齢は43歳となっている。このうち大阪市からの出向者は4人、令和8年3月31日退職者は3人であった。

(7) 事務所の所在地

大阪市天王寺区茶臼山町1-108

(8) 組織（令和8年3月31日現在）



(9) 資本金の状況（令和8年3月31日現在）

5,491,662,000 円

1-2 法人運営

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第26条第1項の規定により大阪市長から指示された中期目標を達成するために作成する中期計画に基づき、業務の効率的かつ効果的な運営に努める。

2. 令和7事業年度業務の全体概況

2-1 令和7事業年度業務の全体概況

中期計画第5期にあたる令和7年度は、第1期中期目標期間の最終年度であると同時に、開園110周年という大きな節目の年であり、前年度までに積み重ねてきた取組成果を具体的な形として結実させる1年となった。

令和7年1月1日の開園記念日においては、2万人を超える来園者をお迎えし、改めて110年の歴史の重みとローカル・グローバル問わず多くの皆様の当園、さらには広く大阪・関西地域への関心と期待の高さを実感した。

110周年事業としての各種記念イベントを企画・実施したほか、令和7年4月より「大阪・関西万博」が開催されたことから、大阪・関西万博の広報に協力し、園内にインフォメーションセンターを設置・QRコードを掲出することで、15言語による動物の紹介や解説をスマートフォンで閲覧できるようにするなど、来園者層の拡大と動物園への関心の持続的な醸成を図った。

動物展示の充実と動物福祉に配慮した飼育管理・高度な飼育技術の確立については、令和7年6月、コレクション計画カテゴリSのアムールトラを多摩動物公園より、カテゴリAのケープハイラックスを京都市動物園より導入し、いずれも天王寺動物園として約2年ぶりとなる展示再開を実現した。カテゴリSのアジアゾウについては、平成26年の春子死亡以降、12年間にわたり国内外の様々な関係機関と粘り強く調整を重ねてきた結果、令和8年3月にマレーシアから3頭の導入を達成した。また、導入直後の公表によりSNS等で話題となるなど、園の魅力向上に大きく貢献した。

繁殖の推進については、令和6年度末に貴重な血統のニホンイヌワシの有精卵2個を秋田市大森山動物園から譲り受けて当園飼育個体に托卵し、令和7年4月に2卵とも孵化に成功した。その後1羽は死亡したが、残り1羽が生育中である。

また、オオサンショウウオ調査について、兵庫県自然保護協会と連携して大阪府内の調査に同行してきたが、これまでの調査実績が認められ、令和7年度より当園職員のみでの定期調査が可能となった。

獣舎整備については、第1期リニューアルの計画策定、発注・工事を計画的に行い、「エレファントヴィレッジ」や「ポーラーベアコースト」などの大型獣舎を完成させた。エレファントヴィレッジは、ゾウの足への負担を軽減する深い砂場（放飼場・寝室）、プール、エサを探す鼻出し穴など動物福祉に配慮した工夫を行った。また、ゾウ達が大きな放飼場を移動する様子や獣舎内での行動を観覧できるよう、複数の視点（獣舎内、放飼場、プール）で観覧場所を設置した。ポーラーベアコーストでは、屋根付きの屋内展示室の設置、観覧窓に面した滞留ゾーン・雛壇状のベンチの設置など、ゆったりと鑑賞できるように配慮した設計・施工を行った。

収入の確保については、寄附付き入園券及びガチャ付き入園券の運用を開始するとともに、ライオン募金の投入口を広げ、硬貨だけでなく紙幣の投入も可能とするなどし、目標額（13百万円）を大きく上回る約83百万の寄附を獲得した。また、令和3年度以来の2回目のクラウドファンディングを実施し、両ゲートでの募金箱の設置や直接受領の新たな方策を含め、各種取組の効果により目標額（1stゴール14百万円、2ndゴール22百万円）を上回る約24百万円ものご支援をいただくことができた。

第2期中期目標期間においても、これまでに引き続き、多様な来園者の皆様・支援者の皆様のニーズに応え、当園が目指す「世界に誇れる大都市大阪にふさわしい動物園」の実現にむけて、職員一同がワンチームとなって関係者とともに取り組んでまいりたい。

3. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目 1ー1	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上 （1）展示動物の計画的な導入・確保 （2）魅力的なイベントの企画・実施 （3）積極的な情報発信 （4）質の高い来園者サービスの提供	【評価点】 Ⅴ：計画を大幅に上回って実施している Ⅳ：計画を上回って実施している Ⅲ：計画を順調に実施している Ⅱ：計画を十分実施できていない Ⅰ：計画を大幅に下回っている。		
中期目標	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上 多くの方に来園したいと思っていただけるよう、展示動物の充実により天王寺動物園の魅力を向上させるとともにその魅力発信を強化する。また、再度来園したいと思っていただけるよう、快適な園内環境を創出する等、来園者満足度を高めるための園内サービスの充実を図る。 (1)展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。 (2)魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。 (3)積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。 (4)質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。			
中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価 評価の判断理由（実施状況等） 評価点	市長評価 評価点 理由
（1）展示動物の計画的な導入・確保				
来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。	コレクション計画に基づく新規希少動物の導入に向けて国内外他園館等と調整を図る。	1	コレクション計画カテゴリSのアジアゾウについて、平成26年の春子死亡以降、12年間にわたり国内外の様々な関係機関と粘り強く調整を重ねてきた結果、令和8年3月にマレーシアから3頭の導入を達成した。平成30年のラニー博子死亡以来不在となっていたゾウを、約8年ぶりに導入できたことは特筆すべき成果である。また、導入直後の公表によりSNS等で話題となるなど、園の魅力向上に大きく貢献したため。 同じくカテゴリSのアムールトラ、カテゴリAのケーブハイラックスを導入し、いずれも約2年ぶりとなる展示再開を実現した。さらに、カテゴリAのフンボルトペンギンの入園により展示羽数を拡充した。	Ⅴ
	JAZAの種別管理者、専門技術員及び部員としての受嘱を継続し、個体群管理計画に連携して取り組み、展示動物の充実へ繋がるよう取り組む。	2	種別計画管理者及び専門技術員として8種の繁殖計画推進会議に参画するなど、引き続きJAZAへ貢献することで、園の信頼向上に寄与できたため。	Ⅲ
	JAZA、WAZAの各種研究会等へ積極的に参加し、得られた情報を速やかに共有し、飼育技術向上を図る。	3	研究会等へ参加し得られた情報を共有することにより、職員の知識向上と動物福祉の向上を図ることができたため。	Ⅲ

(2) 魅力的なイベントの企画・実施						
誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。	これまでのイベントの検証結果を踏まえ、今後のイベントのさらなる魅力向上（学習効果・集客力・リピーター増）に繋げる。また、110周年イベントを引き続き実施する。	4	・ホッキョクグマイイベントにおいて、これまでのイベントの検証やアンケート結果の分析をもとに、相席制の導入による参加人数増加、ホッキョクグマ柄の保冷剤配布による暑さ対策、イベント終了後速やかに参加者以外のお客様が観覧できるようスペース確保のアナウンス実施等、様々な改善を行った結果、アンケートでの満足度がアップした。 ・110周年イベントとして、新企画の内容をはじめとする様々なイベントを多数実施した。 ・各イベントのアンケート結果について、満足度およびリピート希望率が90%を超える高評価のものが多く、園の魅力向上に繋がったため。	IV		
	継続してファンクラブ募集に取り組むほか、法人ファンクラブについては営業戦略に基づく渉外営業を実施し、全体として前年度を超える会員数を目標とする。	5	特典内容を会員ニーズに合わせて改善し、プチ会員には缶バッジ企画で口数拡大に繋がった。また、園内放送・ゲート掲出・SNS活用で認知を強化したことにより新規加入者がプレミアム200名（前年度比119%）、スマート71名（前年度比124.6%）増加したため。	IV		
(3) 積極的な情報発信						
ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。	ホームページの充実、番組企画やロケーションの積極的な受け入れを行い生物多様性の保全に関する理解に繋がるとともに、HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等を分析し、ニーズに合った情報発信を行う。	6	継続して積極的な番組企画の受け入れを行うとともに、SNSによる番組宣伝やお客様目線の情報発信、ホームページの更新を行ったため。	III		

(4) 質の高い来園者サービスの提供						
来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。 さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。			7	これまでのホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づいた研修により、お客様満足度アンケートでスタッフの対応に満足したお客様の上昇及びボランティアによる効果チェックに代わり、覆面調査員による効果チェックを実施し、その結果を踏まえてホスピタリティマインド研修を実施したため。	Ⅲ	
	定期点検に加え、職員による日常点検や来園者の声等を踏まえた美観保持に取り組む。		8	職員による点検の継続実施及び来園者の声を分析し、美観保持や改善に反映できたため。	Ⅲ	
	「園内掲示物整備アクションプログラム」に基づく園内掲示物の点検及び更新を行うほか、リニューアル獣舎についても統一感のある掲示物を作成する。		9	園内掲示物の点検、更新及び作成を実施するとともに、お客様満足度アンケートでやや満足以上が90%以上と高評価を得たため。	Ⅲ	
	令和7年度完成予定の施設（ホッキョクグマ舎、アジアの森）について、ユニバーサルな観覧環境に配慮した整備を実施する。		10	ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設整備を実施したため。	Ⅲ	
	来園者の声を分析し園運営の改善に取り組む。（HP・SNS含む。）		11	アンケートを通じて来園者の声を聞き取り分析することで、掲示物の更新や新たな動物舎での掲示を実施するなど、園運営を改善することができたため。	Ⅲ	
	大阪・関西万博の広報に協力するとともに、万博開催を機に当園に訪れた国内外のお客様に対する「おもてなし」を実施する。		12	様々な取組を実施することで、万博の広報や国内外からの来園者サービスに十分寄与できた。特にスタンプラリーについては好評で、ミャクミャクが掲載された台紙の追加発注に至った。	Ⅲ	

大項目 1－2	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進 (1) 間近で動物を感じる機会の提供 (2) 園内外における学習機会の提供 (3) NPO法人・ボランティア等との協働による学習機会の提供
------------	---

中期目標	2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進 平成30年8月に策定した「天王寺動物園教育ポリシー」を踏まえて教育普及機能を強化し、動物のにおいや鳴き声、様々な行動に実際に触れる機会を提供することに加え、野生動物を取り巻く地球規模の環境問題も視野に教育普及活動を行い、SDGsへの貢献をめざす。 (1) 間近で動物を感じる機会の提供 飼育動物の展示、「ごはんタイム・おやつタイム」の実施、餌やり体験や「ふれあい広場」の運営等を通じ、リアルな動物を見る、声を聴く、においを感じる等の生きている証に出会う機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。 (2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習機活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）間近で動物を感じる機会の提供						
ごはんタイム・おやつタイムの実施や動物への餌やり体験等、新たなふれあい広場の運営を通じ、来園者が間近を感じる機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。	ペンギンパーク&アシカワーフの「おやつ・ごはんタイム」について、より環境問題についての理解を深める内容とするため、アンケートの分析結果に基づいた評価を実施し、プログラムの改善を図る。	13	おやつタイムの実施種を拡大しながら効果検証を行い、来園者アンケートに基づき、コミュニケーション手法の改善に向けた具体的な方向性を整理した。これにより、令和８年度以降の取組につながる実践的な検討を実施できたため。	Ⅲ		
	「教育普及アクションプラン」に基づいたメニューを継続実施し、その実施アンケート結果に基づいてメニューを改善する。	14	定例のディスカバリー・プログラムや企画展だけでなく、開園110周年を記念した企画展やイベントを複数件開催したため。	Ⅲ		
（２）園内外における学習機会の提供						
教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。 また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。	「天王寺動物園ボランティアクラブ1915」の活動機会を増やす。 また、NPO法人や学校・企業等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増やす。	15	ボランティアの参加可能イベント数（種類）を増加させ、企業等との連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増加させたため。	Ⅲ		

大項目 1－3	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立 (1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 (2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進
------------	--

中期目標	3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立 動物の高齢化と獣舎の老朽化が進むなか、動物園の主役である動物たちに事故が起こらないよう対策を講ずることはもとより、健康で幸せに暮らせる環境を創出することは、動物園経営における最重要事項であり、また、最低限の責務でもあることから、飼育管理機能を強化する。特に、これまでに培った飼育技術を着実に継承しながら、さらに高度化させるとともに、世界に通用する飼育基準に適合した獣舎整備を着実に推進することで、動物福祉の充実を図り、天王寺動物園の魅力向上に繋げる。 (1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む。 (2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）動物福祉に配慮した飼育の実践						
動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。	令和５年度に起きた動物の逸走事故を踏まえ、獣舎整備の際、逸走防止の観点を重視した確認を徹底するとともに、ヒヤリハットについては即時記録、即時共有を図り、安全衛生委員会での共有を図る。	16	ヒヤリハットの定期的な事例共有及び動物舎においてあらたに動物の居室を示す看板や指差確認喚呼を促すプレートの設置が完了した。また、新たに特定動物を飼育する動物舎への監視カメラの設置が完了したため。	Ⅲ		
	「環境エンリッチメントおよびハズバンダリートレーニング取り組み方針」で定めた取組み種について、トレーニング実施種を37種から目標種数である40種（実施率100%）を目指す。また、環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングとともに量的評価だけではなく、対象個体の行動レパトリーの評価等、質的評価の導入を検討し、飼育動物の生活の質向上を進めるとともに、実施職員の増加により技術向上に努める。	17	トレーニングおよび環境エンリッチメントの対象種を拡大するとともに、トレーニングの継続および新たなトレーニング内容の追加、ならびに環境エンリッチメントの取組を通じて新たな行動の発現を促した。その結果、行動レパトリーの増加など質的向上が認められ、飼育技術の高度化を実現した。 加えて、来園者を対象としたエンリッチメントツール作成ワークショップを複数回開催することで、エンリッチメントの実施件数の増加にとどまらず、参加者に環境エンリッチメントの意義や手法について理解を深めていただく機会を提供することができたため。	Ⅳ		

(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進						
新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。	令和6年度策定した「(仮称)新病院・研究棟／調理場 整備事業基本構想」を踏まえ、基本計画を策定する。	18	基本計画につながる適地選定の調査ができたため。	Ⅲ		
	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン(拡張)及びホッキョクグマ舎を完成させる。	19	アジアの森ゾーン・ホッキョクグマ舎が計画どおり完成したため。	Ⅱ		
	既存獣舎の点検・補修について、維持管理計画に基づき実施するとともに、動物福祉の観点にも考慮し必要な小規模な改修を計画的に実施する。	20	計画に基づいた改修等が完了したため	Ⅲ		

大項目 1－4	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 繁殖及び調査研究活動の推進 (1) 繁殖の推進 (2) 調査研究の推進と知見の共有
------------	--

中期目標	4 繁殖及び調査研究活動の推進 動物の生態に関する各種調査研究活動や希少動物の繁殖を通じ、種の保存に貢献する。 (1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。 (2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
(1) 繁殖の推進						
種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。 また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。	繁殖推進種ごとに新たな繁殖推進種における環境整備項目（チェックポイント）を設定し、繁殖に向けて継続的に取り組む。	21	チェックポイント項目の継続実施およびチェックポイントの見直しを行ったため。	Ⅲ		
	繁殖相手方の産卵（無精卵）のタイミングにあわせ、採精できるよう、オグロヅル（オス）の精液採取手技の確立に引き続き取り組むとともに、実際の人工授精を目指す。	22	オグロヅルの適切なタイミングでの採精に成功した。 一方で、メス個体が産卵に至らず人工授精の実施には至らなかったが、繁殖機会の確保および種の保存の観点から、産卵を継続しているメス個体を飼育する他園へ移動させるなど、状況に応じた適切な対応を行ったため。	Ⅲ		
	オオサンショウウオ調査について兵庫県自然保護協会と連携して府内の調査に同行し、生息域内保全への取組の足掛かりとする。これに伴い、生息情報の蓄積と啓発活動を行い、府民の生息域内保全への理解を深める。	23	オオサンショウウオ調査について兵庫県自然保護協会と連携して府内の調査に同行するだけでなく、これまでの調査実績が評価され、当園職員のみでの定期調査も実施できる体制を確立した。さらに、日本産動物の多様性と共生をテーマとしたイベントを初めて開催し、多くの参加を得るとともに高い教育効果を上げた。加えて、別途実施したオオサンショウウオ関連イベントのアンケートにおいて、理解が深まったと回答した参加者（高評価）が60%を超える結果となり、普及啓発の有効性が確認されたため。	Ⅲ		

(2) 調査研究の推進と知見の共有						
自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。	「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。	24	園内、他施設との共同研究とともに調査を継続して実施したため。	Ⅲ		
	園内掲示、ホームページ等で共同研究実績や、取組段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図るとともに、当園の成果については研究会等で発表する。	25	7つの研究会で9名の職員により発表を行い、当園の取組他園に情報共有を図った。キリン研究会では自園での削蹄の紹介を行うと共に他園の事例や基本的な削蹄道具の取扱い、道具の手入れも含め今後の蹄のケアに大変参考になった。また、獣舎周辺に発表の概要をポスターで掲示し、来園者にも園で取り組んでいる研究内容を周知したため。他機関との共同研究についてHPに掲載した。	Ⅳ		

大項目 2-1	2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 自律的な組織経営 （1）機動的な組織体制の構築 （2）適材適所の柔軟な人事配置
------------	--

中期目標	1 自律的な組織経営 (1)機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 (2)適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
（１）機動的な組織体制の構築						
法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。	引き続き法人の目指す姿を対外的に発信する。また、法人の目指す姿の実現に向け、職員の意識醸成等に継続的に取り組む。	26	各職員への研修を実施し、ホームページ等で情報発信の充実を図った。	Ⅲ		
（２）適材適所の柔軟な人事配置						
中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。	法人の組織体制（外部の専門人材登用含む）について検討し、随時採用をはじめ柔軟に対応する。	27	人員体制についてヒアリングなど点検作業を実施し、採用活動も含め計画どおり実施したため。（評価事例のとおり） ☐	Ⅲ		

大項目 2-2	2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起 （1）人材の確保・育成 （2）職員の能力向上と意欲喚起
------------	--

中期目標	2 人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起 (1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会及び世界動物園水族館協会等 関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。）に関する研修参加等）を積極的に設ける。 (2) 職員の能力向上と意欲喚起 インセンティブが適正に働く人事評価制度を確立することにより、勤務意欲を高め、職員個人の能力及び組織力の向上を図る。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価		
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由	
（１）人材の確保・育成							
人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。 また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をＯＪＴや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。	必要に応じて人材育成方針及び計画の修正、資格取得支援対象資格の追加を行う。	28	方針及び計画の必要に応じた見直しを行ったため。また資格取得支援制度の見直しを実施したため。（評価事例のとおり）□	Ⅲ			
	人材育成方針及び計画、提案型研修制度に基づき研修を実施する。多様化、複雑化に伴い内容が相互に関連、重複する研修については類型化のうえ体系的に実施する。	29	計画的に研修を実施し、新しい研修についても検討するなど現状を反映し修正したため。□	Ⅲ			
（２）職員の能力向上と意欲喚起							
法人設立当初に策定した評価制度の定期的な効果検証を行い必要に応じて見直しが行なわれる仕組みを構築する。	令和6年度に構築したインセンティブが働く評価制度について定着を図るとともに、制度の検証を行い、必要に応じて見直しを行う。	30	アンケート等による検証結果の分析を行い、見直しを行いながら人事評価制度の運用を行ったため。	Ⅲ			

大項目 2－3	2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 効果的・効率的な業務執行 （１）ＰＤＣＡサイクルの確立 （２）ＩＣＴの導入及び活用
------------	--

中期目標	3 効果的・効率的な業務執行 (1) ＰＤＣＡサイクルの確立 評価委員会の見解に基づき本市が評価基準を作成し、その評価基準を動物園経営のＰＤＣＡサイクルに組み込み効果的・効率的な業務執行に努める。 (2) ＩＣＴの導入及び活用 ＩＣＴを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
(1) PDCAサイクルの確立						
法人設立初年度は、評価の対象となる年度計画の各項目毎に適切に進捗管理が実施できるような仕組みを構築し、日常業務の履行が評価基準の達成に自然と結びつくよう取り組みを行う。さらに、達成状況を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。	年度計画及び中期計画の進捗状況について定期的に市と確認する。	31	年度計画や中期計画の進捗状況を定期的に市と確認・共有し、スケジュールに沿って中間評価（年度計画）、見込み評価（中期計画）が行えたため。同時並行で、第2期中期計画についても円滑に策定できたため。	Ⅲ		
(2) ICTの導入及び活用						
事務効率化の観点から人事財務部門へのICTの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、ICTの導入と日常的な活用に取り組む。	人事財務システムの安定運用を図るため、操作マニュアルの更なる充実を進めるとともに、必要に応じてバージョンアップやワークフローシステムなどの新たなシステム導入を検討する。	32	バージョンアップ等を適宜実施することで安定運用ができたため。（評価事例のとおり）	Ⅲ		

大項目 3-1	3 財務内容の改善に関する事項 1 収入の確保
------------	-----------------------------------

中期目標	1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
1 収入の確保						
事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。	入園料収入5.3億円・入園者数181万人を目標とする。（令和7年度予算）	33	周辺施設との連携や海外用web販売等、新たな取組を行ったものの、大阪・関西万博の開催で他施設と同様に観光需要が万博会場周辺へ集中したことや、猛暑の長期化の影響もあり、入園料収入、入園者数共に目標値の達成ができなかったため。	Ⅱ		
	2回目のクラウドファンディングを実施する。	34	ウェブサイトだけでなく、両ゲートでの募金箱の設置や直接受領の取組により、当初目標としていた1stゴールのみならず、2ndゴールの目標金額を達成したため。	Ⅳ		
	寄附額13百万円（ファンクラブ、クラウドファンディングを除く）を達成する。	35	寄附総額57百万円と目標額を大幅に超えただけでなく、寄附付き入園券の運用開始及び運用変更、ライオン募金の投入口の改良といった新たな取組を実施したため。	Ⅳ		
	園内事業者と連携しながらオリジナルグッズの開発と販売促進を行い、売上目標額23百万円を達成する。	36	前年度比で入園者数は減少したが、110周年コラボの記念グッズの売れ行きが好調なこともあり、目標額を達成したため。（約5百万円超）	Ⅲ		

大項目 3-2	3 財務内容の改善に関する事項 2 経費の節減
------------	-----------------------------------

中期目標	2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
2 経費の節減						
日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。	・ごみの排出量削減及びペーパーレス化に取り組む。 ・水道・電気使用量について、前年度（令和6年度）と比較・検証を行い、使用量節減の方策を検討・実施する。 ・これまでの包括施設管理業務委託（令和4年8月～令和7年7月）を踏まえ、次期（令和7年8月～）の発注を維持管理業務の効率化（例：紙管理→データ管理等）を考慮した内容に見直し、契約後実施する。	37	猛暑の影響により電気・水道使用量の抑制が難しい状況の中、安全確保に配慮しつつ、節電・節水の取組を継続的に実施し、可能な範囲で排出量および使用量の節減に努めたため。	Ⅲ		
	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の整備費について、新たに不可避要因等の外部影響による増額が見込まれる場合は、内容や仕様の見直し等を行い、中期計画で定める予算額内で整備する。	38	コスト管理を徹底し、第一期リニューアル整備事業が中期計画で定める事業費内で完了できたため。	Ⅲ		

大項目 4 - 1	4 その他業務運営に関する重要事項 1 内部統制の強化 (1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 (2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用 (3) コンプライアンスの周知徹底 (4) 個人情報等の保護 (5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施 (6) ネットワークセキュリティの強化
--------------	---

中期目標	1 内部統制の強化 法人が適切に業務を運営していくため、内部統制の確立・強化に必要な環境を整備する。 (1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 (2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用 (3) コンプライアンスの周知徹底 (4) 個人情報等の保護 (5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施 (6) ネットワークセキュリティの強化
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
①重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築						
集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直し可能な仕組みを構築する。	内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。	39	内部統制体制に関する定期的な検証を行ったため。	Ⅲ		
	リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。	40	計画的にリスク管理に取り組んだため。（評価事例のとおり）	Ⅲ		

②法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用						
法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。	諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則など）については、全職員を対象とした研修を定期的実施する。	41	諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し、必要なものは新たに整備した。 変更内容については定期的実施する研修等で周知を行った。	Ⅲ		
③コンプライアンスの周知徹底						
法令順守に加えて、独立行政法人の職員として社会（来園者）の要請に応える行動は何かを理解する。	コンプライアンス意識の浸透のため、研修のほか強化月間などの取組を継続して実施する。	42	コンプライアンス研修を実施するとともに、1月をコンプライアンス強化月間とするなど、コンプライアンス意識の浸透を図ったため。	Ⅲ		
④個人情報等の保護						
個人情報等の保護に関する法律に基づいて整備した法人の個人情報保護規定を職員全員が十分に理解・運用できている状態とする。	個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。	43	4月に個人情報流出のインシデントが発生したが、その後の研修等で改めて個人情報の取扱と管理の重要性を説明し、その後の再発が防止できたため。	Ⅲ		
⑤内部監査及び監事監査の適切な実施						
内部監査により定期的に内部統制環境の有効性をモニタリングするとともに、監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。	内部監査・監事監査を実施するとともに、改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。 また、市の監査結果における指摘事項が改善されているかも併せて確認する。	44	内部監査・監事監査を実施したため。	Ⅲ		
⑥ネットワークセキュリティの強化						
個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を徹底する。	セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を適宜検証のうえ改訂を行うとともに、設立団体である大阪市と同等の研修を実施する。	45	セキュリティポリシーに基づきPCのアップデートを行うとともに研修を実施したため。	Ⅲ		

大項目 4-2	4 その他業務運営に関する重要事項 2 来園者の安全確保
------------	--

中期目標	2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
来園者の安全確保						
園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の工事が継続することから、工事に伴う事故が無いよう来園者及び職員の安全対策を実施する。	46	工事車両の動線分離や安全な移動通路の確保など、来園者・職員の安全対策を着実に実施したため。	Ⅲ		
	来園者と職員の安全確保及び安定した園運営の観点から、獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。	47	定期点検を着実に実施し、安全確保等に寄与できたため。	Ⅲ		
	令和6年度の実施結果により、より来園者の安全確保につながる効果的な猛獣脱出訓練として、シナリオを通知しない訓練及びあらたに想定される複数の動物逸走について机上訓練を実施する。	48	防災研修を行い、全職員を対象に猛獣脱出時の体制確認及び手順を再確認するとともに、捕獲道具の保管場所や使用方法について周知を徹底し、緊急時対応の向上を図ったため。	Ⅲ		

大項目 4－3	4 その他業務運営に関する重要事項 3 職員の安全衛生管理
------------	---

中期目標	3 職員の安全衛生管理 職員が安全かつ快適な労働環境で業務に従事できるよう、安全対策の徹底と事故防止に努める。 また、職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
職員の安全衛生管理						
労働安全衛生法等に基づいた安全衛生管理体制に加え、職員の健康保持促進のための取組みを進めるとともに、職員へ周知徹底する。	安全衛生管理体制を確立するとともに、健診等も含め職員の健康保持のための取組を進める。	49	安全衛生管理委員会を定期開催した他、健康診断、ストレスチェック、健康講座、事故・ヒヤリハット事例の共有を着実に実施したため。	Ⅲ		

大項目 4－4	4 その他業務運営に関する重要事項 4 環境に配慮した取組の推進
------------	--

中期目標	4 環境に配慮した取組の推進 環境への負荷を低減するため、天王寺動物園内及び事務所内において環境に配慮した取組を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
環境に配慮した取組の推進						
WAZA（世界動物園水族館協会）の持続可能戦略で示されたSDGsへの貢献に向け、環境に配慮した取組を推進する。	SDGsに関する園内での取組を拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取組を進める。	50	ユニフォームのアップサイクル、企業等と協働したイベントや食品ロスの削減を継続して行ったため。	Ⅲ		

大項目 4－5	4 その他業務運営に関する重要事項 5 情報公開の推進
------------	---------------------------------------

中期目標	5 情報公開の推進 法人の運営状況について透明性を確保するため、毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
情報公開の推進						
情報公開を推進し、運営状況の透明性を高めることで、法人の活動への理解及び信頼を得る。 また、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報も、積極的に公表する。	引き続き、法人に対する理解を深めてもらうよう、財務諸表や年報をはじめとする法人情報等の情報公開を推進する。	51	財務諸表や年報等について遅滞なく公表したため。	Ⅲ		

大項目 4－6	4 その他業務運営に関する重要事項 6 BCPの策定
------------	--------------------------------------

中期目標	6 BCPの策定 地震や台風等大規模な自然災害の発生や新興感染症の流行等によるリスクを最小限とするため、BCP（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。
------	--

中期計画	年度計画	小項目 No.	法人の自己評価		市長評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価点	評価点	理由
BCPの策定						
地震、台風など自然災害及び新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザなどの新興感染時による対応をあらかじめ定めることで来園者・職員の安全を確保する。	これまでの事案や令和6年度の状況を踏まえ、必要に応じてBCPの改定を行う。	52	BCPの検討を推進するとともに、改定に向けた検討を行ったため。	Ⅲ		

4. 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

※財務諸表及び決算報告書参照

5. 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1億円 ＜想定される理由＞ 運営にかかる一時的な資金不足への対応、運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れすること等が想定される。	1億円 ＜想定される理由＞ 運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れすること等が想定される。	なし

6. 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

中期計画	年度計画	実績
次の財産について除却により処分する。 令和4年度以降 旧ラクダ舎・カモシカ舎（附1） 令和5年度以降ランウータン舎、キジ舎、コアラ館 横便所 （各施設の付帯施設含む）	なし	なし

7. 前号に規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
なし	なし	なし

8. 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余金が発生した場合、動物の導入及び動物福祉の向上、園内環境の質の向上、教育活動及び調査研究等の充実、人材への投資及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。	決算において剰余金が発生した場合、動物の導入及び動物福祉の向上、園内環境の質の向上、教育活動及び調査研究等の充実、人材への投資及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。	なし

9. 地方独立行政法人天王寺動物園の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則（令和3年3月31日大阪市規則第63号）で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実績																																								
（１）人事に関する計画 動物福祉に配慮した飼育を実践するほか、動物や職員 の安全確保を図るため、令和３年度に職員を増員す ること で飼育管理体制の適正化に取組むとともに、そ の体制について検証し将来的な人員配置計画を策定す る。	（１） 人事に関する計画 人材育成方針及び計画に基づき各種人事業務を実施するとともに、 必要に応じて方針及び計画を修正する。	・組織の役職や人員数の改編・補充にかかる仕組みを構築した。 ・年度当初ヒアリングを行い、現行体制の検証、見直しを行った。																																								
（２）施設に関する計画 施設については、中長期的な視点に立ち、計画的な 整備に取り組む。 <table><tr><th>施設の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr><tr><td>・ ホッキョクグマ舎（設計・工事）</td><td rowspan="11">7,262百万円</td><td rowspan="11">施設整備費補助金</td></tr><tr><td>・ 適応の世界（設計・工事）</td></tr><tr><td>・ アジアの森ゾーン拡張（計画・設計・工事）</td></tr><tr><td>・ 新猛禽舎（計画・設計）</td></tr><tr><td>・ 新夜行性動物舎（計画）</td></tr><tr><td>・ アフリカの森ゾーン（設計・工事）</td></tr><tr><td>・ 日本の里ゾーン（計画・設計）</td></tr><tr><td>・ 樹上の森ゾーン（計画・設計）</td></tr><tr><td>・ 休憩エリア（計画・設計・工事）</td></tr><tr><td>・ アジアの高地ゾーン（計画）</td></tr><tr><td>・ 動物病院・研究棟・調理場（計画）</td></tr></table>	施設の内容	予定額	財源	・ ホッキョクグマ舎（設計・工事）	7,262百万円	施設整備費補助金	・ 適応の世界（設計・工事）	・ アジアの森ゾーン拡張（計画・設計・工事）	・ 新猛禽舎（計画・設計）	・ 新夜行性動物舎（計画）	・ アフリカの森ゾーン（設計・工事）	・ 日本の里ゾーン（計画・設計）	・ 樹上の森ゾーン（計画・設計）	・ 休憩エリア（計画・設計・工事）	・ アジアの高地ゾーン（計画）	・ 動物病院・研究棟・調理場（計画）	（２） 施設に関する計画 施設については、中長期的な視点に立ち、計画的な整備に取り組 む。 <table><tr><th>施設の内容^{※1}</th><th>予定額^{※1}</th><th>財源^{※1}</th></tr><tr><td>・ ホッキョクグマ舎（工事）^{※1}</td><td>3,588百万円^{※1}</td><td>施設整備費補助金^{※1}</td></tr><tr><td>・ アジアの森拡張（工事）^{※1}</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 動物病院・研究棟・調理場（計画）^{※1}</td><td></td><td></td></tr></table>	施設の内容 ^{※1}	予定額 ^{※1}	財源 ^{※1}	・ ホッキョクグマ舎（工事） ^{※1}	3,588百万円 ^{※1}	施設整備費補助金 ^{※1}	・ アジアの森拡張（工事） ^{※1}			・ 動物病院・研究棟・調理場（計画） ^{※1}			（２） 施設に関する計画 施設については、中長期的な視点に立ち、計画的な整備を行った。 <table><tr><th>施設の内容^{※1}</th><th>予定額^{※1}</th><th>財源^{※1}</th></tr><tr><td>・ ホッキョクグマ舎（工事）^{※1}</td><td>3,588百万円^{※1}</td><td>施設整備費補助金^{※1}</td></tr><tr><td>・ アジアの森拡張（工事）^{※1}</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 動物病院・研究棟・調理場（計画）^{※1}</td><td></td><td></td></tr></table>	施設の内容 ^{※1}	予定額 ^{※1}	財源 ^{※1}	・ ホッキョクグマ舎（工事） ^{※1}	3,588百万円 ^{※1}	施設整備費補助金 ^{※1}	・ アジアの森拡張（工事） ^{※1}			・ 動物病院・研究棟・調理場（計画） ^{※1}		
施設の内容	予定額	財源																																								
・ ホッキョクグマ舎（設計・工事）	7,262百万円	施設整備費補助金																																								
・ 適応の世界（設計・工事）																																										
・ アジアの森ゾーン拡張（計画・設計・工事）																																										
・ 新猛禽舎（計画・設計）																																										
・ 新夜行性動物舎（計画）																																										
・ アフリカの森ゾーン（設計・工事）																																										
・ 日本の里ゾーン（計画・設計）																																										
・ 樹上の森ゾーン（計画・設計）																																										
・ 休憩エリア（計画・設計・工事）																																										
・ アジアの高地ゾーン（計画）																																										
・ 動物病院・研究棟・調理場（計画）																																										
施設の内容 ^{※1}	予定額 ^{※1}	財源 ^{※1}																																								
・ ホッキョクグマ舎（工事） ^{※1}	3,588百万円 ^{※1}	施設整備費補助金 ^{※1}																																								
・ アジアの森拡張（工事） ^{※1}																																										
・ 動物病院・研究棟・調理場（計画） ^{※1}																																										
施設の内容 ^{※1}	予定額 ^{※1}	財源 ^{※1}																																								
・ ホッキョクグマ舎（工事） ^{※1}	3,588百万円 ^{※1}	施設整備費補助金 ^{※1}																																								
・ アジアの森拡張（工事） ^{※1}																																										
・ 動物病院・研究棟・調理場（計画） ^{※1}																																										